

データベースのアップグレード手順

対象バージョン:SSC3.0～3.6

本手順は、SigmaSystemCenter 3.0 / 3.1 / 3.2 / 3.3 / 3.4 / 3.5 / 3.6で使用しているデータベースをSQL Server 2008 R2へアップグレードする手順について記載しています。

アップグレードの対象となるのは、SQL Serverで作成されたDeploymentManager、SystemProvisioning、SystemMonitor性能監視の各インスタンスです。

本手順書では、以下のケースを対象としています。

<バージョンのアップグレード>

旧バージョンのSigmaSystemCenterで、SQL Server 2005、およびSQL Server 2008を使用されていた場合は、SigmaSystemCenterのバージョンアップが完了した後に、既存のSQL Serverインスタンスをアップグレードしてください。

アップグレード元	アップグレード先
SQL Server 2005	SQL Server 2008 R2
SQL Server 2008	SQL Server 2008 R2

<エディションのアップグレード>

SigmaSystemCenter 3.0、3.1 (Update なし) では、デフォルトでSQL Server 2008 R2 Expressがインストールされます。本手順を参照してアップグレードしてください。

アップグレード元	アップグレード先
SQL Server 2008 R2 Express	SQL Server 2008 R2上位エディション

注: SQL Server 2005 / 2008 / 2008 R2 Express Edition を SQL Server 2008 R2 の上位エディションにアップグレードすると、データベースの復旧モデルが「単純」から「完全」に変更されます。このため、ジャーナルログが記録されるようになり、データベースが増加します。対処として、単純復旧モデルに設定するようにしてください。

1. 事前準備

アップグレードする前の SQL Server (SQL Server 2005、または SQL Server 2008) に修正プログラムや最新の Service Pack が適用されていることを確認してください。Service Pack が適用されていない状態でアップグレードを実施すると、SQL Server 2008 R2 へのアップグレードが中断されてしまい、正しく完了することができません。

2. DeploymentManager、SystemProvisioning、SystemMonitor 性能監視のデータベースをアップグレード するには

DeploymentManager、SystemProvisioning、SystemMonitor 性能監視のデータベースのアップグレードを行います。以下の節の順番でアップグレードを実施してください。

2.1. DeploymentManager、SystemProvisioning、SystemMonitor 性能監視のサービスの停止

以下の順番でサービスを停止してください。

- ◆ System Monitor Performance Monitoring Service
- ◆ PVMService
- ◆ DeploymentManager API Service
- ◆ DeploymentManager Backup/Restore Management
- ◆ DeploymentManager Get Client Information
- ◆ DeploymentManager PXE Management
- ◆ DeploymentManager PXE Mtftp
- ◆ DeploymentManager Remote Update Service
- ◆ DeploymentManager Schedule Management
- ◆ DeploymentManager Transfer Management

2.2. SQL Server 2008 R2 へのアップグレードインストール

DeploymentManager、SystemProvisioning、および SystemMonitor 性能監視のインスタンス名は、それぞれ「DPMDBI」(固定値) *1 と「SSCCMDB」(既定値) です。各インスタンスを SQL Server 2008 R2 へアップグレードするには、以下に従って実施してください。

- ◆ SQL Server 2008 R2 へアップグレードするには
[https://msdn.microsoft.com/ja-jp/library/ms144267\(v=SQL.105\).aspx](https://msdn.microsoft.com/ja-jp/library/ms144267(v=SQL.105).aspx)

*1 SigmaSystemCenter 3.2 以降は 「DPMDBI」(既定値) と変更になりました。

注:

- ・ エディションのアップグレードを行う場合は、以下の手順から進めてください。
「SQL Server インストール センター」画面の左ペインにある [メンテナンス] をクリックし、
[エディションのアップグレード] をクリックします。
 - ・ SQL Server 2008 R2 へアップグレードインストールを実施する前に、以下を参照して注意事項を確認してください。
「3.1 64 ビット版 OS にて SQL Server 2008 R2 を使用する場合は注意事項」
-

2.3. 修正プログラム、Service Pack の適用

以下のいずれかの方法で、アップグレードした SQL Server インスタンスに修正プログラムや Service Pack を適用してください。

- ◆ Windows Update を実行し、対象の SQL Server インスタンスに対して適用可能なすべての修正プログラムや Service Pack を適用します。
- ◆ SQL Server の修正プログラムや Service Pack をダウンロードし、対象のインスタンスに適用します。

2.4. DeploymentManager、SystemProvisioning、SystemMonitor 性能監視のサービスの開始

本手順「2.1 DeploymentManager、SystemProvisioning、SystemMonitor 性能監視のサービスの停止」で停止したサービスを開始してください。

以上で SQL Server 2008 R2 へのアップグレードは完了です。

3. 補足・注意事項

3.1. 64 ビット版 OS にて SQL Server 2008 R2 を使用する際の注意事項

64 ビット版 OS にて SQL Server 2008 R2 を使用する際の注意事項を記載します。

使用する Edition により注意事項の内容が異なります。使用する Edition を確認し、注意事項を参照してください。

- ◆ SQL Server 2008 R2 Express を使用する場合
「3.1.1 SQL Server 2008 R2 Express を使用する場合」を参照してください。
- ◆ SQL Server 2008 R2 上位エディションを使用する場合
「3.1.2 SQL Server 2008 R2 上位エディションを使用する場合」を参照してください。

注: 本内容はアップグレード元の SQL Server が x86 アーキテクチャの場合の注意事項です。アップグレード元の SQL Server が x64 アーキテクチャの場合の注意事項はありません。

3.1.1. SQL Server 2008 R2 Express を使用する場合

SQL Server 2008 R2 Express にアップグレードする場合、以下の点に注意してください。

- ◆ Microsoft SQL Server 2008 R2 Express のインストーラは、Microsoft ダウンロードセンターから SQLEXPRESS_x86 (32 ビットと 64 ビットの両方 (WoW) の OS へのインストールをサポートしている) を入手してください。
- ◆ Microsoft SQL Server 2008 R2 Express のインストーラを実行する際は、コマンドプロンプトで「/X86」オプションを付けて実行してください。

3.1.2. SQL Server 2008 R2 上位エディションを使用する場合

SQL Server 2008 R2 上位エディションにアップグレードする場合、以下の点に注意してください。

- ◆ 「SQL Server インストール センター」画面の左ペインから [オプション] をクリックし、[プロセッサの種類:] から "x86" を選択します。その後、「2.2 SQL Server 2008 R2 へのアップグレードインストール」から入手したアップグレードインストールの手順に従って、アップグレードしてください。

3.2. DPM が使用する DPMDBI インスタンスのアンインストール

本手順に従って SQL Server 2008 R2 へアップグレードを実施すると、SigmaSystemCenter のインストーラから、DeploymentManager が使用する DPMDBI インスタンスをアンインストールすることができなくなります。アンインストールを実施する場合には、以下の手順に従ってください。

注: 本内容は SigmaSystemCenter 3.0、および 3.1 に関する注意事項です。

＜Windows Server 2008 以降の場合＞

1. コントロールパネルより、[プログラムと機能] をクリックします。
2. 「Microsoft SQL Server 2008 R2」を選択して、[アンインストール] をクリックします。指示に従って「DPMDBI」インスタンスのアンインストールを実施してください。

＜Windows Server 2003 の場合＞

1. コントロールパネルより、[プログラムの追加と削除] をクリックします。
2. 「Microsoft SQL Server 2008 R2」を選択して、[削除] をクリックします。指示に従って「DPMDBI」インスタンスのアンインストールを実施してください。

作成日:2011/06/20
最終更新日:2017/05/16